

12/16(土)オンラインで道南支部学術・教育部第1回研修会に参加しました。
テーマは、生活期リハビリテーションに向けた退院支援の視点～

講演からの学び

①退院前家屋訪問の重要性が中医協の資料や演者の先生の発表データ等から理解することが出来た。
具体的には入院患者に対し、退院前家屋訪問を実施すると・・・

- ☆在院日数の短縮
- ☆再転倒の予防
- ☆活動量の向上
- ☆再入院率の低下

につながるのとこと。根拠づけられていることが理解できたことが良かった。ただ、退院前家屋訪問自体の実施率が全国では2割程度しか実施されていないとのこと。

当院では自宅退院予定患者には8～9割出来ているので、当院の行っていることが間違っていないことも理解できた。

②自宅内歩行自立に向けては、本人の身体能力×環境調整が必要。

病棟内で歩行が自立できていないから、自宅内で歩行が自立できないということにはならない。病棟という環境は人の往来や自宅内と比較すると距離的な問題も出てくる。なので、病棟で歩行が出来ないからと自宅の歩行をあきらめてはいけない。

(もちろん、病棟内移動が自立して自宅内移動も自立するとBest。)

歩行がぎりぎりの患者さんであっても、福祉用具等の環境調整も踏まえて、自宅内での移動を検討することが必要。

もちろん退院後に訪問リハ等のサービスでフォローアップしてもらうことも必要。

最後に、とても印象的だったのは、生活習慣には個人差があるということ。なんとなく私たちは私たちの生活習慣をおしつけようとすることがあると思う。そうではなく、その人らしさを理解して、退院に向けた支援を一緒に行っていければ良いと感じた。

色々な学びのあった研修会でした！！

道南支部 学術・教育部 令和5年度 第1回研修会

～生活期リハビリテーションに
向けた退院支援の視点～

WEB開催

令和5年12月16日(土)

12:30受付 13:00～16:00(終了予定)